

職場のとりくみ

活躍されているみなさんにお話を聞きました!

Interview

- 1 今の仕事をするきっかけなど
- 2 大切にしていることはありますか
- 3 これからのビジョンを教えてください

いちち
伊地知 さやかさん

株式会社 大城
二級建築士



プロとして活躍できる環境で
引き出しを増やす日々。

1 新たな価値を生み出す仕事に出会う。

照明関係の仕事をしていた父の影響を受けて建築系の高校に進学し、卒業後も建築の世界でキャリアを積んでいます。

2年ほど前に、今の会社の社長から声をかけてもらい、現在は、リノベーション事業部「リノベっが」で既存建物に新たな価値を与えるリノベーションの仕事に取り組んでいます。

2 長く愛される家づくりを。

一棟一棟を大切に丁寧に施工できるよう心がけています。現場を預かる建築のプロとして顧客の夢を叶えられるような高いレベルの提案をしつつ、建築士である私自身の思いも伝えられる仕事ができるよう、そして、住む人が愛着を持って長く使ってもらえる家づくりができるようになりたいと思っています。

3 結婚しても働き続けたい。

目指すところもあり、やりがいのある仕事ですが、急な現場の対応などもあり、独身だからできる働き方をしていると感じています。今の部署で女性は私一人なので、結婚や出産とキャリアが噛み合う暮らしは実現できるのだろうかと思うことがあります。同じ業界で活躍しているキャリアモデルがいれば次の世代も目指しやすい業界になるのではないのでしょうか。

くしべ さちこ
櫛部 幸子さん

鹿児島国際大学 経済学部
専任講師 商学博士



結婚・出産を経て研究者の道へ。
地道な調査研究で
中小企業をバックアップ。

1 尊敬する恩師に導かれ、会計学者に。

大学卒業後、専業主婦になりましたが、将来は仕事をして家族を支えたいと考え、簿記の勉強を始めました。専門的に学びたいと一念発起し、37歳で大学院へ進学。44歳で博士号を取得しました。

恩師をはじめ様々な出会いに恵まれたからこそ、研究者への道が開けたのだと思います。

2 飽くなきチャレンジ精神で道を切り拓く。

2015年に鹿児島へ単身赴任してきました。仕事と家庭の両立には職場と家族の理解が不可欠です。家庭では完璧主義になりすぎないことも大切だと思います。

近年、研究の現場では女性の登用が進み、積極的に発言・活動することができます。私は大学の制度を利用して、著書を出版することもできました。

3 地域経済の発展に会計学を活かしたい。

会計学は経済や企業経営に直結する学問なので、その発展の一助になりたいという信念を持って日夜研究に励んでいます。グローバル化が進む中、今後中小企業にも国際会計基準の適用を求められる可能性があります。これからも国際会計と中小企業会計の両輪で研究を進めながら、会計を通じて地域に貢献できる人材育成にも力を注いでいきたいです。

いいふく
飯福 あすみさん

一般社団法人 鹿児島天文館総合研究所 Ten-Lab
理事/事務局長



地域の中の小さな声と声を繋げて
まちづくりをサポート。

1 きっかけは、女性起業家との出会い。

まちづくりに興味を持ったのは、大学時代の就職活動がきっかけでした。当時、全国で“稼げるまちづくり”をしている方々の話を聞く機会に恵まれ、同様の活動を生まれ育った鹿児島でできたらいいなと思いました。そこで、鹿児島県内のまちづくりをサポートしているTen-Labに合流しました。

2 地域の声を引き出し、活動を促す。

建築やデザインの専門家ではない私がこれまで地道に取り組んできたのは、ヒトとヒトの関係性を良くすることです。地域活性化事業は、あくまで地元の方々が主役です。私は伴走者として、参加者からさまざまな意見やアイデアを引き出し、それらをまとめていながら、具体的な活動につなげていくことを常に心がけています。

3 一人ひとりの居場所とつながりをつくりたい。

より良いまちづくりには、男女双方の視点が必要です。大切なのは、競い合うことではなく一人ひとりの居場所があることだと思っています。ヒトとヒト、ヒトとマチをつなぐために、互いの考え方を尊重し、対話し続けながらつながる仲間とともに、一人ひとりが欲しい未来を創造すること、そのために行動していくことをサポートし合う関係性をまちななかで築いていきたいです。

ノー残業デーを実施。
ワーク・ライフ・バランスを考えた職場づくり。

ホシザキ南九株式会社

従業員397名(男性:332/女性:65)

業務用厨房機器製品を南九州エリアで総合的にプロデュースするホシザキ南九(株)では、「遵法はもとより社会と社員から信頼される会社づくり」を目指して、平成23年から年1回コンプライアンス教育を継続的に実施しています。そのほかの取り組みとして毎週水曜日のノー残業デー実施や有給休暇取得率50%以上を目標に掲げ、昨年はノー残業デー実施率90%以上、有給休暇取得率50%以上を達成しました。まだまだ男性が多い業界ですが、女性の視点を生かしてよりよいサービスを提供するために、女性の活躍が必要不可欠と考えています。今後も継続的に取り組みを実施し、女性にとっても働きやすい職場環境をつくり、プラチナくるみんマークの取得を目指します。

イキイキと長く働ける職場環境を目指して
様々な環境づくりに取り組んでいます。

医療法人 参天会

従業員377名(男性:140/女性:237)

医療と福祉が一体となった専門的な支援を行っており、スタッフ一人ひとりがイキイキと自分の役割を担えるように常に働きやすい環境づくりを心がけています。例えば、業務を効率よく行うための機械化・システム化を積極的に取り入れているほか、長く働き続けられるように産前産後・育児休業の取得を推進しています。また、地域内に住宅を新築した場合、最大35年間手当を支給する「住宅取得奨励金制度」を設けており、制度利用第一号となった女性スタッフは、自宅を新築しました。これらの取り組みの結果、平成28年度は介護職離職率を3%に抑えることができ、長く働ける職場環境が少しずつ形になってきています。

memo

業界での取り組み **けんせつ小町**

建設業界が官民一体となって
取り組む女性活躍推進。

日本建設業連合会は、建設業で活躍する女性の愛称を「けんせつ小町」とし、多くの女性が土木・建築・設備・機械など多様な職種で活躍していることを、広く業界内外の皆さんに知ってもらうために様々なPR活動を行なっています。



企業での取り組み **イクボス**

経営者や管理職が
ワーク・ライフ・バランスを
推進する!

「イクボス」とは、職場で共に働く部下・スタッフのワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の両立)を考え、その人のキャリアと人生を応援しながら、組織の業績も結果を出しつつ、自らも仕事と私生活を楽しむことができる上司(経営者・管理職)のことです。
鹿児島市は、仕事と生活を両立しやすい環境の整備に率先して取り組む市内の32企業・団体で「鹿児島市イクボス推進同盟」を設立しました。